



東北大学

ISSN 0385-7506 Vol. 32, No.1 2007



東北大学附属図書館報 木這子

BULLETIN OF THE TOHOKU UNIVERSITY LIBRARY

URL <http://www.library.tohoku.ac.jp/>

- 木這子(きぼこ)とは東北地方の方言で、こけしのこと。小芥子這子(こけしぼうこ) -

目	次
○文字認識 - 人と機械のコミュニケーション... 1	○「東北大学生のための情報探索の基礎知識」シリーズの完成.....18
○植物の病気と事始め..... 4	○附属図書館商議会商議員名簿.....19
○東北大学附属図書館和漢書貴重図書目録の刊行について(その一)..... 6	○会 議.....20
○平成19年度新入生向け図書館オリエンテーション等の開催.....10	○人事異動.....22
○平成19年度蔵書検索講習会(初級編)の開催...10	○「狩野文庫」グッズ販売開始.....23
○2007年日・EUフレンドシップウィークイベント:「100年前のヨーロッパ」展開催... 11	○東北大学創立百周年記念「漱石の愉しみ」の販売について.....24
○研究室向け個別図書館ガイダンス開催.....12	○平成19年度東北大学附属図書館企画展「絵葉書タイムトラベル - 狩野文庫絵葉書コレクションから - 」.....25
○平成19年度目録システム地域講習会(図書コース)開催.....13	○東北大学創立100周年記念展示の案内 27
○「江戸の遊び~けっこう楽しいエコレジャ~」を巡る話題から(3)みるきく楽しみ.....14	○編集後記.....28

文字認識 - 人と機械のコミュニケーション

工学分館長 阿 曾 弘 具



平成19年4月より、松本繁先生の後任として工学分館長を拝名しました。図書館と言えば学生時代片平の図書館に通ってディベートの資料集めをしたことが思い出されます。大

学院時代は専門の論文を読むのに利用しました。それが最近では図書のために足を運ぶことがまれになってしまったのですが、平成9年より平成18年まで東北大学百年史の工学部史の編纂委員になり、編纂室が工学分館にでき、毎月通うようになりました。これらが図書館との関わりだったのですが、この度はサービスをする側になり、少しでもお役にたてればと思っております。

ます。

私の所属は工学研究科電気・通信工学専攻で、学部としては旧通信工学科に属しています。しかし、現在の専門は通信工学とはちょっとずれた並列処理、パターン認識、ニューラルネットワークということになっています。最初は情報処理の基礎理論に興味をもっていて、それが並列処理につながりました。通信工学は電話システムを典型とする分野ですが、最終的には人と人のコミュニケーションを支える技術分野です。人と人とのコミュニケーションの間に機械（広い意味の機械で現在ではコンピュータも意味します）があり、人と機械のコミュニケーションが必要になります。パターン認識はその典型的なもので、人に固有な「認知・認識」の機能をコンピュータに持たせようという研究分野です。人の「認知・認識」の機能は脳が担っています。その脳を構成している神経細胞をモデル化し、神経細胞の機能を数式で表したことから、互いに結線されている神経細胞からなるシステムとしてニューラルネットワークが考えられ、脳の人工的モデルとして脚光を浴びています。現在のコンピュータはときに電子頭脳、電脳と呼ばれますが、脳の機能を実現している原理とは異った原理で動いています。コンピュータは基本的に解くべき課題の解き方（アルゴリズムという）がわかっているときに有効に働かせることができます。しかし、「認知・認識」の課題はその解き方がわかっていない問題であり、コンピュータで実現することが難しいのです。

文字認識はロボットの目に必要です。現時点では街を歩くロボットがいても看板や交通案内が読めないわけです。本を文字認識しそれを点字や音声に変えることができ、視覚障害者にとって有用な技術です。現在いろいろなものがコンピュータ内データとして保存されるようになりました。図書館も本の所在案内だけでなくコンピュータネットワークを介した情報の案内も重要な仕事になっています。電子図書もできています。人間に読んでもらうということを前提にすると認識技術は必要ありません。画像として保存しておけばいいからです。実際、画

像ファイルとして保存することが進んでいます。しかし、そうしたファイルから使用している単語の頻度の情報を求めるとか、索引を作るとか、点字に変換するとか、音声で読み上げさせるとかはできません。そうするためには文書の内容を文字の列として表現しておかなければなりません。ワープロで作られた文書ファイルは1文字ずつコンピュータ可読なものになっており、それから単語頻度を求めたりすることが可能です。本としてしか存在していないものを文字の列として電子的情報に変換することは今のところ人間が行わざるを得ない状況です。本を読んでタイプを打つという作業です。文字認識技術はこの作業を自動化するものです。しかし、今のところ実用化にはまだまだ遠いという現状です。その理由は、現在の認識技術では、どうしても認識誤りが生じてしまうことにあります。認識率99%とは、1000字を認識させると10字誤るということです。認識率があがって99.9%になると1000字の文書に1字の誤りになりますが、その誤りを見つけ訂正することを考えると実用的に使えるとは言いきれません。

字を読めるようになった人間はなぜ読めるのか、どういう方法で読んでいるのか自覚できません。そのため人間が使っている方法をコンピュータに教えることができないのです。コンピュータを使う認識技術では人間が文字を憶えてきた方法とは違った原理の方法を模索して認識アルゴリズムを考案してきました。例えば、「あ」という文字画像をたくさん集め、そこに共通する性質を求めて、与えられた文字画像がその性質を持っているかどうかを判定することで認識できると考えました。しかし、文字画像自体をコンピュータに取り込ませるには、TVカメラやスキャナなどを使わざるを得ず、そのように取り込まれた文字画像は、画像を横方向に細かく切った断片の集まりとなり、それぞれの断片は地の白と文字の一部である黒の並びとして表現されてしまいます。そのような表現は、ちょっとした位置の違いでまったく異った白黒の並びになってしまいます。「あ」という手書き文字を想像して下さい。人によりまた同一人でも書くたびに違った形になっています。違った形

とは、画像として重ねたときぴったり重なることはほとんどない、ということです。印刷文字であってもぴったり重なることはまれなのです。しかし、人は画像としては初めて見るものでも文字として認識できるのです。また、「あ」という字形の、コンピュータで判定可能な性質とは何か、ということ自体が明らかではないのです。文字認識手法の開発は、このコンピュータで判定可能な性質を追及することでした。文字の特徴量と呼んでいます。しかし、簡単な「一」から非常に複雑な「驚」の字まで同じ方法で各文字それぞれの特徴量をみつけることは困難なのです。文字には似ている文字も多いのです。「は」、「ば」、「ぱ」はほとんど形は同じで、右肩に違いがあるだけです。「同じ方法で特徴量をみつける」ことが困難な理由の一つです。人間はわずかな違いに注目して識別しているわけですが、このわずかな違いというのが文字画像の近辺についたちょっとしたゴミと区別できないことが多いのです。濁点が付くか半濁点がつくかどうかは文字種で決まっているので、文字種が分かれば、ゴミかそうでないかはわかるわけですが、ゴミかそうでないかがわからないまま文字種を決めなければならないのです。「化」と「イヒ」も似ています。文字列画像の中からどこまでを独立した1文字とみなすかも困難なことで、今のところ場合分けを細かくして判定しています。人は文書画像を一目みただけで一文字一文字を例え初めて見る文字でも見分けることができます。しかし、その見分け方は明示的には分からないままです。とはいえ、普通の文章のように直線状に並んだものは見分けています。文字を認識した後に文字列を見出すのか、文字列らしきものを見分けてから文字を認識するのかという様々な考えを駆使して、曲線状に並んだものも見分けることができるようになりつつあります。

図書館の蔵書データベースを作り始めた頃、手書きやタイプ打ちの図書目録カードを電子化するのは多分人海戦術だったと思います。文字認識の研究者でこの作業に協力した人も多いのですが、最終的には人の手が入ったと思います。図書目録カードは本と違い文字の配置が規則的

でなく、人間が分かればよいという観点で作成されていたことも認識を困難にしました。かすれていたり、斜線で消されていたり、コンピュータで認識させようとする、それまで気がつかなかった点、人にとっては特に意識せずによく分かる点に問題が多くあることがわかりました。

人間にとって簡単なこと、認識すること、ものを見ること、聞き分けること、すべてがコンピュータにとっては難しいことなのです。ペットロボット、介護ロボットも人の顔を見分け、声を聞き分けるようになってきましたが、まだまだ間違ってしまうのです。しかも、その間違いを間違いとして記憶し、次からは間違わないようにするという学習機能も研究段階で、実用段階には遠い状況です。現在のコンピュータを働かせるには、起こり得るすべてのことを想定してその対策をプログラムしておく必要があるのです。しかし、それは難しいことです。ニューラルネットワークを使って、例題を与えるだけで自ら学習していく手法はその解決策になりえると考えられるのですが、ニューロン素子が膨大になること、その結線構造をどのようにすればよいかが未知であること、などから、研究の途上にあると言えます。人間は成長の過程で記憶し学習してきたのですが、その記憶方法、学習方法もまだまだ解明されていません。コンピュータアルゴリズムに応用できる形で明示的になってはいない、という状態です。人間の脳は神経細胞が互いに結線されたものです。それが外界のあらゆることを認識し、自発的意識をもった存在にさせています。文字認識の本質的な解明をすることは、そのような人間の脳機能の解明につながると思われる。それによりコンピュータに意識を持たせることが可能になるかもしれません。しかし、それは遠い将来のことでしょう。

人と機械のコミュニケーションの一端を担う文字認識は工学的な課題を解決しつつ実用化されていくでしょうが、同時に、人間の意識の機序の解明にもつながっていることを自覚していきたいと思っています。

(あそ・ひろとも)

植物の病気と事始め

農学分館長 池 上 正 人



植物の病気の原因にはヒトなどの病気と同じように、細菌、カビ（菌類）などの病原微生物やウイルスなどが知られています。ヒトや動物と違うのは、カビによる病気が70%以上にもなることです。ヒトの病気と違って、都会に住み、また農業や植物栽培の経験の少ない人々にとっては、日頃、植物の病気に対する意識はほとんどないのが普通だと思います。しかし、作物の病害によって、地域または国単位で社会生活や、また歴史を変えるような重大な影響を受ける例もあります。

これは、150年ほど前のアイルランドに起きたジャガイモの病害による悲惨な飢餓の事例です。ジャガイモの病害にジャガイモ疫病と呼ばれるものがあります。ジャガイモの開花期に、雨による日照不足と低温とが続くと、まず下葉に暗緑色の斑点を生じ、この斑点は次第に拡大して暗褐色となり、葉のほぼ全面に広がります。葉の裏面には斑紋の緑に沿って灰色のかびが現れます。収穫したイモもこのかびに侵され、腐敗してドロドロになります。1845年、アイルランドのジャガイモ畑に疫病が発生し、1846年には被害が広がり、収穫減は80%にも及び、その翌年の種ジャガイモにも事欠く状態になりました。この不作は数年以上も続き、800万の総人口のうち、100万人が餓死し、空前の悲惨な結果になったとされています。そのため、さらに100万人が新大陸のアメリカやオーストラリアに移民として出国しました。米国の故ケネディー大統領の祖先もこの時の移民であったことはよく知られています。これらの移民の人々も飢餓の後遺症で10万人が死に、生き残った人も

短命に終わった人が多かったといえます。この大飢饉は植物の病害がもたらした悲劇として植物病理学史上有名な事実であるばかりでなく、世界史的にもよく知られた事実となっています。

こと植物のウイルス病について歴史をひもとくと、必ずオランダのチューリップの話に触れることとなります。チューリップがモザイク病にかかると、あの美しい花の花弁が奇形になり、色も淡くまたは白い斑紋になるなど、一見すると普通の花と異なる美しさを感じさせるようになります。それがウイルス病であることが知られていなかった17世紀のオランダではこれが評判となり、売買には高い値が付けられ、その球根1個で家が建てられるほどになりました。栽培家はこのようなチューリップをつくることに血眼になり、このような球根を切り取って別の球根に植え込むと、斑入りになることを知りました。ウイルスを接種していたこととなります。しかし、このチューリップのもたらしたバブル景気も一時期のことで、やがて崩壊しました。当時の絵画には斑入りの花を描いたものが多く残されています。後にこれはチューリップモザイクウイルスによることがわかりました。

現在、国際的に最も古いウイルス病の記録として認められているのは、万葉集の巻一九に採録されている孝謙天皇（女帝）が詠まれた和歌です。

この里は つぎて霜やおく 夏の野に
わが見し草は もみちたりけり

この歌は奈良東大寺の大仏殿において大仏開眼会の行われた西暦752年5月30日（現暦）、天皇がこの開眼式に行幸の後、ときの大納言藤原仲麻呂の邸宅にお立ち寄りになった時に詠まれ

たものです。歌の題詞には「天皇が太后とともに大納言藤原家に行幸した日、黄葉した沢蘭（ヒヨドリバナ）1株を抜き取って内侍佐々貴山君にもたせ、大納言藤原郷ならびにお供の大夫等に遣わした御歌一首、命婦（女官）詠んでのたまわく」とあります。初夏の藤原邸の庭に葉が黄色になったヒヨドリバナをご覧になった女帝はやがては霜の降りるこの里に、「夏というのに、この草はもう黄葉しているわ」などとつぶやかれたに違いありません。

ヒヨドリバナはキク科の多年草で、秋、ヒヨドリの鳴く季節に花が咲くことから、この名があるとされています。最近、このように葉脈が早くから美しい黄色なるのは、ジェミニウイルスと呼ばれるウイルスによることが明らかになりました。ちなみに、ヒヨドリバナや同じウイルスによる同様の病徴を示すスイカズラは現在でも日本各地の山野で観察されます。女帝の御歌が1200年以上も後になって、植物ウイルス学上の証拠として取り上げられるなどとは、夢にも思わなかったことでしょう。

私は、ジェミニウイルスが植物ウイルスでは数少ない1本鎖DNAを持ち、それがローリングサイクルで複製することなどを Nature と Proceeding of National Academy of Science, USA に発表して以来、25年以上に亘りジェミニウイルスについて研究をしてきました。ジェミニは双子の意味であるように、このウイルスの粒子は二つの球状に近い粒子が連結した珍しい形をしています。小型昆虫のタバココナジラミによって伝搬されることから、日本をはじめ、東南アジア、南米、アフリカ、ヨーロッパで栽培されている主要農作物や主要工芸作物に感染し、大きな被害を与えています。我が国では、トマトの黄化萎縮病や黄化葉巻病がジェミニウイルスによる病気です。トマト黄化葉巻病の病原ジェミニウイルス(トマト黄化葉巻ウイルス)はイスラエルから侵入したとされ、これまでに全国27府県以上で発生が認められており、今やトマトの生産現場では重大な病害の一つになっ

ています。RNAウイルスと違って、ジェミニウイルスでは頻繁にウイルス間で組み換えが起こり、それにより宿主植物が拡大したり、病原性遺伝子の変異を起こしたりして病原性の強いエマーゼンシーウイルスが出現するようです。頻繁に出現するエマーゼンシーウイルスを如何に防除するかが今後の課題であり、日本、アメリカ、イスラエル、中国など被害の大きな国で研究が始まっています。

(いけがみ・まさと)

東北大学附属図書館和漢書貴重図書目録の刊行について（その一）

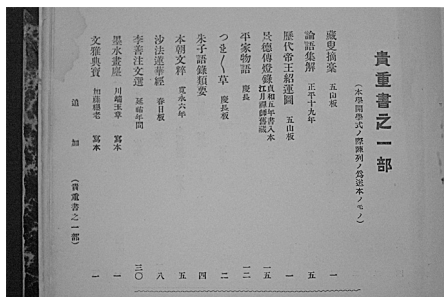
- 昭和11年版『和漢書別置本目録 未定稿』の刊行 -

東北大学学術資源研究公開センター 大 原 理 恵

東北大学附属図書館本館では、平成17年度に和漢書貴重図書目録を刊行した。ついては、その編纂に到る経過について記しておくことにしたい。

開学式貴重図書展示

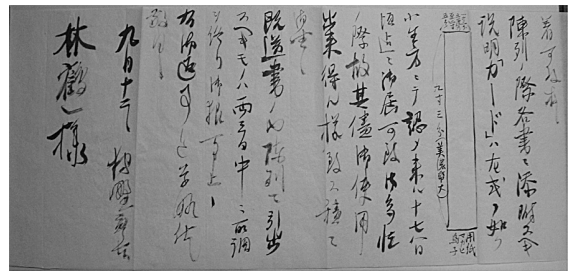
話は多少昔に遡る。平成17年度刊行の目録は昭和36年に刊行した『東北大学附属図書館別置本目録 増訂稿』をさらに増補改訂したものである。当時は貴重図書のことを「別置本」と称していた。36年度版目録は、昭和11年発行の『和漢書別置本目録 未定稿』に、増補改訂を施したものである。この昭和11年版目録が、その後の貴重図書目録の基本ということになるが、さらに遡って、その濫觴ともいえる目録が、『東北帝國大學所藏狩野氏舊藏書假目録』（大正3年）に含まれている「貴重書之一部」である。



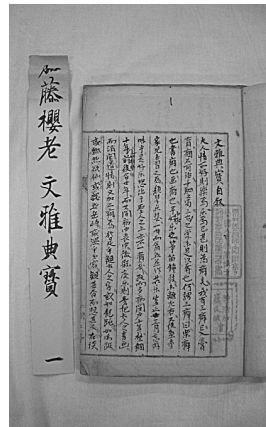
「貴重書之一部」

この目録には「本学開学式ノ際陳列ノ為送本ノモノ」と注記がある。大正2年の開学式に展示を行うため狩野亨吉氏によって特に送られた典籍の目録である。これに関連する、狩野亨吉の林鶴一（初代附属図書館長）宛書簡が東北大学史料館に保管されている。

書簡によれば、展示の時期が迫っていたこともあって、狩野氏の配慮により書名等を記した紙の札が添えられたようである。これを書物の脇におけば、そのまま展示が出来るというわけである。その名残らしいものが、現在の貴重図書の一部には差し挟まれている。



狩野亨吉書簡（史料館蔵）



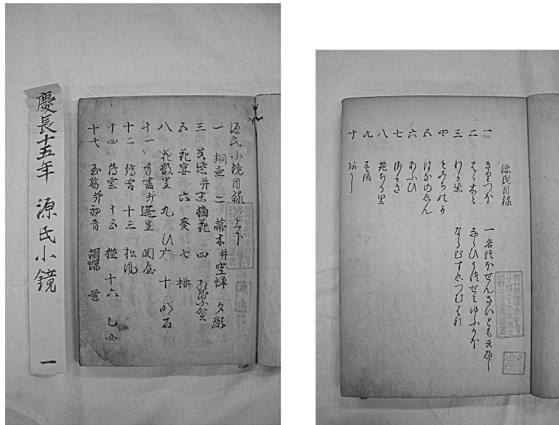
貴重図書『文雅典寶』と挿入されている紙の札

「貴重書之一部」に掲載されているのは、開学展示にふさわしく、格式の高い古写本・古刊本・名家自筆本が中心であり、江戸の刊本などは後に貴重図書に加えられたものかと推測される。

別置本と特別本

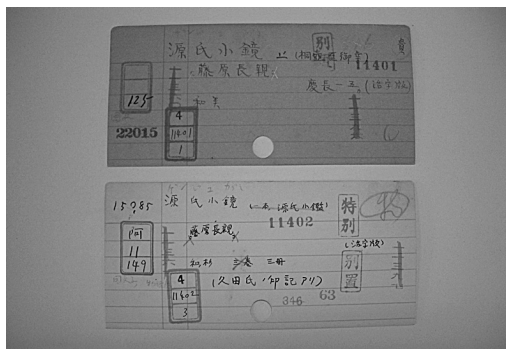
昭和7年の『源氏物語関係書解題』（重松信弘稿・東北帝國大學附属圖書館刊）は附属図書館所蔵本を学術的に紹介したものであるが、その中に書籍番号が示されず、「貴重書」とのみ記されているものが数点ある。たとえば、『源氏物語』（宇1-943 漆塗箱入）・『源氏物語註』（阿1-34 三条西実隆講公條記）・『源氏小鏡』（阿6-125 慶長活字本）である。一方、現在貴重図書に指定されているものでも、「源氏小鏡」（阿11-149 活字本）には書籍番号が示されている（なお、本解題の狩野文庫の書籍

番号は現在の番号とは異なっているので注意を要する)。この時点では、まだ貴重図書とはされていなかったのであろうか。

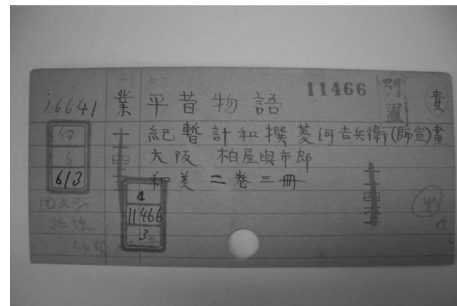
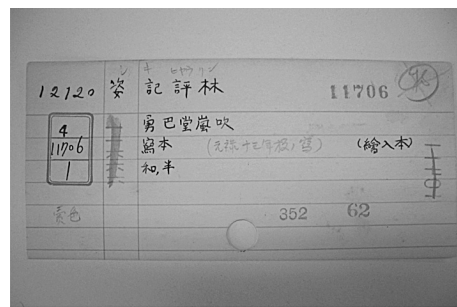


貴重図書『源氏小鏡』2点

2点の『源氏小鏡』はともに狩野文庫のものであるが、前者の方が、開学展示の目録に含まれているそれと推測される。事務用のカード目録を見ると(このカードは事務室にあり普段は閲覧利用者の目に触れることはない)、前者は青色のカードで、「別置」の印があり、後者は白い一般的なカードに、「特別」「別置」の印が押されている。また隅には素早く記したかと思われる筆致で「特」の字が鉛筆で書き込まれている。

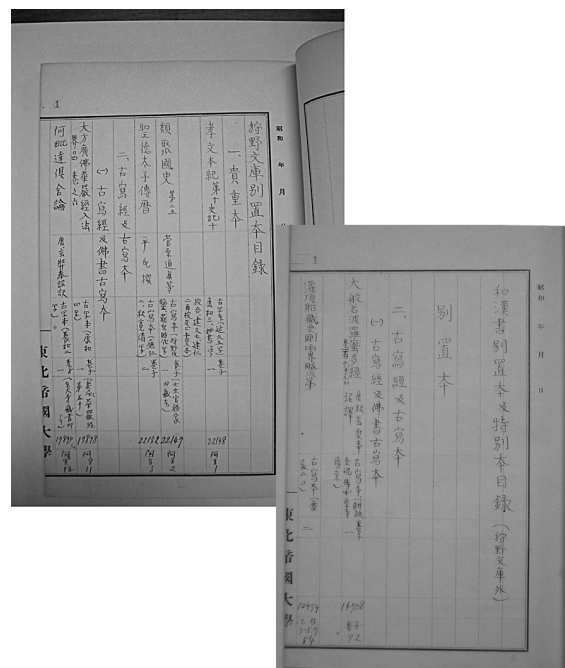


これは、伝聞であるが、まず特別本とすべきものに「特」の文字を記し、さらに絞り込んで別置本(貴重図書)を選び出す、という手順であったとのことである。青色のカードの資料は、初めから貴重書扱いを受けたものであろうか。選定に当たった人の迷いはカードの上にも残されていて、「特」の文字の上に「×」が記されていたり、あるいは脇に「？」がつけられているものが、少なからず見受けられる。



別置本・特別本に選定された図書は現在「別置」「特別」と記されたラベルが貼られ、別置本は貴重書庫で、特別本は普通書と同じ書架で保管されている。特別本は別置本に次ぐ貴重な図書ということになるが、実際には複製本なども特別本とされている場合がある。この特別本についてはまた別に報告することにしたい。

選定された特別本・別置本の手書の目録『狩野文庫別置本目録』・『狩野文庫特別本目録』・『和漢書別置本及特別本目録(狩野文庫外)』が作成されており、末尾には「昭和十年三月・四月」等の日付がある。

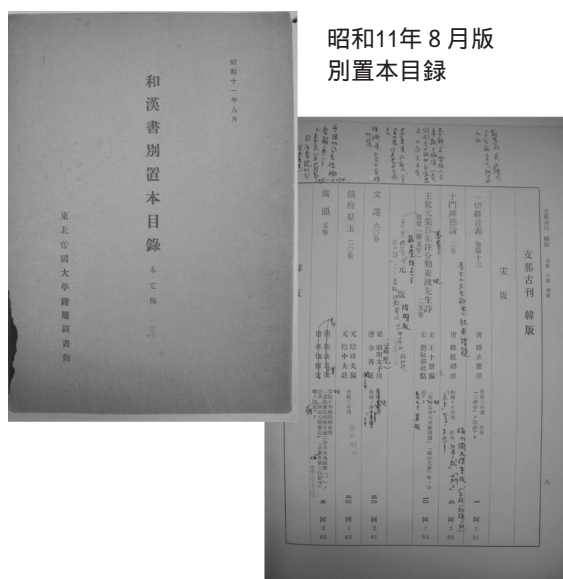


これらの目録では「古写本」「古刊本」等の分類がなされ貴重図書目録としての体裁が整えられている。

別置本目録の刊行

昭和11年、いよいよ別置本目録が刊行されることになる。ところが、その編纂印刷過程はかなり複雑である。この時の事情については、実際の編纂作業に関わった矢島玄亮氏「愚得録(五)」(『東北地区 大学図書館協議会誌』第9号 昭和34年10月)の「(1)2種6類の「東北帝国大学附属図書館和漢書別置本目録・未定稿」について」に詳細に記されている。2種とは、昭和11年8月刊,同年10月刊。10月刊はさらに5種類に分かれる。

「第1種本は筆者の手許に2部あるだけで他には全くないはず。」と矢島氏は記しているが、これは8月刊行の目録のことで、現在附属図書館事務室に1冊,東北大学史料館に1冊が保管されている。



昭和11年8月版
別置本目録

この8月刊目録にはおびただしい書き込みがなされているが、矢島氏によれば、見本として印刷所から届けられた目録に次々と誤りが発見されたため、「相談の結果はこの見本刷を原稿として再製することとなった」。「初め300部印刷の予定で、200部を印刷製本した時この見本を呈出したので、印刷所には其儘にしておくよう命じたという」。誤りが多くなった原因は様々

あろうが、漢字に大変な苦勞をしたのは確かなようである。そして、「訂正増補(組版を動かさないように)の結果ひどく誤りがあって正誤表だけですませられない頁は、その頁全部を刷り代へ、正誤表で間に合う頁はそのままとして後に正誤表をつけることとし、なお本文と索引の正誤表と人名追加を加えて、既に印刷した200部をこの方法で再装し刊記を10月にかへた(C・D・E本)別に新原稿によって300部を印刷したというのがこの分には正誤表はつけない(A・B)」という処置をとることにした。

矢島氏は10月刊の5種類をA本～E本と称している。BはAの特製本で「クローズ厚表紙」、CはDの「スフ表紙特製本」、黒い布の表紙である。「B、Cは総長、学部長、館用等にしたもの作製部数も10部内外」、EはDに1枚おきに白紙を綴込んだ(書込のためであろう)ものであり、「Eは殆んど事務用に回したらしく、その部数も不明であるが、これは殆んど館外には出なかったと思う」と矢島氏は記す。

繰り返しになるが、C・D・E本は同じ内容で装丁が異なるだけある。これらには、末尾に正誤表がある。新たに修正した内容で印刷し直したのがA・B本であり、したがって正誤表はない、ということになる(ただし、矢島氏は「A・Bの中百部はCと同内容か」としている)。



昭和11年10月版
別置本目録

正誤表

創立二十五周年貴重図書展示

昭和11年は、東北帝国大学創立二十五周年にあたる。なお、今年・平成19(2007)年が東北大学創立百周年であるというのは、明治40年から数えている。このあたりの事情について、『東北大学五十年史』は次のように説明している。

「昭和十一年十月十七日、東北大学は創立二五周年記念の式典をあげた。昭和十一年は東北帝国大学が仙台に設置された明治四十年から数えてあしかけ三〇年にあたり、東北帝国大学理科大学が仙台で開講した明治四十四年から数えて満二五年になる。当時の大学当事者たちは名目上の設置よりも理科大学の開学をとくに重視し、満年令で数えて、創立三〇年といわず、創立二五周年といった。」(第一部第四編第四章第四節 創立二五周年記念式典)

附属図書館でも記念のため貴重書の展示を行った。会場は附属図書館閲覧室(現在の東北大学史料館2階展示室)である。展示されたのは、貴重図書の内、写本であった。展示目録(『東北帝国大学二十五周年記念展覧目録』)の凡例には「昭和十一年十月一日」の日付があり、「本目録は本館にて近く出版せる和漢書別置本目録によりて適宜編制せるものなり」と記され、内容は貴重書目録の縮約版ともいうべきものになっている。



創立25周年記念貴重書展(写真は史料館蔵)

別置本・特別本について『閲覧の栞』(自昭和十二年至昭和十三年 東北帝国大学附属図書館)第二篇第三章 特別本 には次のように記されている(原文は縦書)。この冊子では、別置本を「第一特別本」、特別本を「第二特別本」

と称している。

「本館所蔵図書の中、特別の取扱を要するものを特別本として、之を一般蔵書と区別する。

第一節 和漢書特別本

和漢書の特別本は、狩野文庫を始め、其他の和漢書(古典、新書)から選出し、夫々之を第一特別本と第二特別本との二種に分つ。

第一特別本(別置本)

第一特別本は、図書の表紙、及び、閲覧カードに「別置」の記号を附し、之が閲覧は、特別の規定に随ふ。現在狩野文庫から五六五部(甲)、其他から八八部(乙)を挙げ、夫々左記の表の如く分類し、別の書棚に蔵めてある。

〔分類表・略〕

第二特別本

第二特別本は、図書の表紙、及び、閲覧カードに、「特別」の記号を附し、之が閲覧は、特別の規定に拠るが、分類は、一般の蔵書に等しく、現在狩野文庫に一、三〇九部、其他に九七部ある。」

また、「閲覧細則」には、「五、特別本ノ借覧八、特別閲覧席ニ於テ、之ヲ為スモノトス。」とある。

こうして別置本目録は刊行され、貴重図書に関する基本的な体制は整えられたが、なすべきことは、まだ多くあった。貴重図書選定の再検討、目録の記述の改訂も必要であった。別置本目録はあえて「未定稿」と称し、さらなる増補改訂が期待されていたのである。

〔未完〕

(おおはら・りえ)

平成19年度新生向け図書館オリエンテーション等の開催

情報サービス課参考調査係

新生向けイベントとして、前年から引き続き川内地区学部・研究科新生オリエンテーションにおける図書館ガイダンス、図書館オリエンテーションを開催した。

図書館ガイダンスは、川内地区の学部・研究科（文・教・法・経・国際・教情）が行う新生オリエンテーションに当館職員が参加して、図書館概要の説明と図書館オリエンテーションへの参加を呼びかける内容で、9会場、約1000名に対して実施された。

説明者と補助者2名の情報サービス課の職員をオリエンテーション会場に派遣し、約10分間程度図書館と新生オリエンテーションの紹介を行った。各会場では、図書館利用案内のほか、『情報検索の基礎知識基本編2007』を全新生に配布し、広報を行った。留学生向けには今年度新たに作成した英語版の『基礎知識』も配布した。

特に教育学部では、毎年ガイダンスに1時間かけ、図書館内会場で行っている。図書館利用方法の紹介のみならず、大学での学術研究と図

書館、教育学部生に読んで欲しい資料というテーマで担当者が説明を行い、加えて貴重書展示室見学も行った。

図書館オリエンテーションは4月10～12日、19～20日の5日間行い、約200名の参加者があった。入学式、学部ガイダンス、授業開始などの慌ただしい日程からやや時間を置いた開催日の設定にしたが、参加者数では前年を下回る結果となった。各学部オリエンテーションでの図書館オリエンテーションのさらなるアピール、開催時期の再検討が次年度の課題となった。

図書館オリエンテーションは約1時間で、図書館紹介のビデオ上映、MyLibraryなどビデオでは紹介されない新しい機能の補足説明、図書館ツアーで構成された。通常新生は入れない書庫などを含んだツアーでは、同じ見学コースでありながら、引率者各自の経験が生かされたグループごとにユニークなツアーとなった。

学部オリエンテーションへの参加、図書館オリエンテーションの実施にはご協力頂いた館員各位に、この紙面を借りてお礼申し上げます。

平成19年度蔵書検索講習会（初級編）の開催

情報サービス課参考調査係

平成19年度蔵書検索講習会（初級編）は、5月15日、17日、21日に、当館システム研修室で開催された。当講習会は、当図書館の蔵書を扱う際に最も基本にして重要なOnline Catalogシステムについて最低限の知識を講習することが目的で、3日間で26名の参加があった。

前半にOnline Catalogの説明と実習を交互に行い、後半に練習問題を通して、前半で得た知識の定着を狙った。講師と補助は、参考調査係と図書館情報教育支援ワーキング・グループで担当し、無事3日間、計6回を成功の内に終了させた。

昨年度好評であった、留学生向けの英語による蔵書検索講習会も行った。内容は日本語での講習と同様、同会場で行い、今年度刊行した英語版『情報検索の基礎知識』“Guide to Academic Information Search for Students of Tohoku University”をさっそくテキストとして活用した。

参加者のアンケートでは「今まで自己流でやっていたが、検索のポイントがわかってよかつ

た」といった感想が多く見受けられた。

広報は、川内地区を中心に掲示ポスター、図書館ホームページ、「らいぶらりNOW」、高等教育開発推進センターのメールマガジンで行った。アンケート結果からはポスターとメールマガジンのアピール効果が高かったことが分かった。終わりに、この紙面を借りてご協力頂いた館員各位に、お礼申し上げます。

2007年日・EU フレンドシップウィークイベント：「100年前のヨーロッパ」展開催

情報サービス課参考調査係

「日・EU フレンドシップウィーク」イベント6回目の今年は、「100年前のヨーロッパ」展と題して5月14日～24日までの11日間、附属図書館本館の入館ゲート付近フロアで開催された。

東北大学創立100周年と、EECの設立を決めたローマ条約調印50年にちなんだこの展示で

は、2007年1月で27カ国になったEU加盟国の100年前の様子あるいはこの100年の歴史の紹介、平和的統合を目指すEUに対して武力で統合しようとした勢力の紹介、本多光太郎ら初代教授予定者のヨーロッパ留学の紹介を行った。史料館の協力で本多光太郎らの書簡、写真等を展示することが出来た。その他会期中は



EU 広報誌やパンフレット等を配布し、アンケートに協力していただいた見学者には、EU オリジナルの携帯ストラップまたはピンバッジを贈呈した。

東北大学附属図書館は1983年から EU 資料センター（EDC）に指定されてきたが、EU 本部の方針により2006年9月にEU 情報センター（European Info = EUi）と名称変更をした。EUiには引き続きブリュッセルの

EU 本部から様々な資料が送付されてきている。是非ご活用いただきたい。また、欧州連合のウェブサイト（ヨーロッパサーバ）<http://europa.eu/>でも法令・判例等種々の情報検索が可能となっている。利用法等が分からない場合は当係までお尋ねいただきたい。

終わりに紙面を借りて、ご協力下さった駐日欧州委員会代表部、史料館、情報サービス課、雑誌情報系の皆様にお礼申し上げます。

研究室向け個別図書館ガイダンス開催

情報サービス課参考調査係

毎年4～6月にかけて研究室向けの個別講習会を開催している。今年度は文学部と教育学部の演習を主とした4クラスの60名に対して、合計6日間の講習を行った。図書館が主催する蔵書検索講習会、情報検索講習会が一般的、初級的内容であるのに対して、研究室向けの個別講習会では担当者と教員との打合せの上その研究

室の要望に合わせたデータベースの紹介等を行っている。内容はさまざまで蔵書検索実習のみのもこともあり、貴重書展示室の見学を行うこともある。研究室・授業単位の講習会ご希望があれば、下記にご連絡ください。

desk@library.tohoku.ac.jp 参考調査係



平成19年度目録システム地域講習会（図書コース）開催

5月30日から6月1日までの3日間、附属図書館において「目録システム地域講習会（図書コース）」が開催されました。この講習会の目的は、目録業務担当の図書館職員が国立情報学研究所の総合目録データベースの構成、内容、データ登録を正しく理解し、受講者のスキルアップのみならず、総合目録データベースの品質を向上させることで、東北地区の大学や高等専門学校図書館から15名の参加者がありました。

今回の特徴は、新たな試みとして、受講者が各自のパソコンから国立情報学研究所の講習会専用ホームページにアクセスして行う、セルフラーニングとセルフチェックテストが導入されたことです。これらは講師も初体験ということでも多少不安と緊張を抱いておりましたが、受講者の理解度は高く、無用な心配ということで済みました。

セルフラーニングは「目録システム概論」と「目録情報の基準」を映像と音声によって学習するものです。受講生にとっては、視覚と聴覚を働かせながらも自分のペースで学習出来ることや、理解の不十分な箇所は前に戻って確認出来る等の点で機能的・有効的であり、予定時間をオーバーするというハプニングがあったものの、概ね好評でした。

セルフチェックテストは、受講者が習ったばかりの内容を理解しているかどうか自己確認するもので、検索、目録1、目録2の3テストが出題されました。テスト後は最高点、最低点、平均点などが集計されるので、講師はそれらをもとに理解不足の設問について重点的に解説を加えることが可能です。総じて、テスト結果は高得点であり、講習内容は十分に理解されていたようです。

その他の講義や実習についても、講師の講義の進め方や補助者の助言・対応などが適切であるという感想が多く、番外で行った図書館見学に対しても貴重な資料や施設・設備を目の当たりにして大変参考になったという意見が多数寄せられ、本講習会の所期の目的は達成されたようです。

また、これまで初日の夜に行っていた懇親会を、今年度は「懇親ランチ」として昼間に開催しました。講師も交えた「懇親ランチ」には受講者全員が出席し、「同じ釜の飯」をともにしながら自己紹介や意見交換を行うなかで、それぞれの経験談や職場環境などを理解することで緊張もほぐれ、以後の講習にリラックスして望むことが出来たようです。

（総務課・情報管理課）

「江戸の遊び～けっこう楽しいエコレジャ～」を巡る話題から(3)

みるきく楽しみ

情報部情報基盤課 学術情報支援係長 横山美佳

はじめに

江戸時代は、大衆がイベント会場に集まって芸能を楽しんだり、妖怪や怪談などの不思議な世界を楽しんだり、実に様々な、みて、きいて楽しむ文化が開花しました。江戸の人々は、「大衆が集まる場所」や「不思議」という非日常的な別世界に身を置くことで、日常生活から解放されていたのです。

平成18年度企画展「江戸の遊び～けっこう楽しいエコレジャー～」を巡る話題の第3回目は、「みるきく楽しみ」として、本企画展の第3部で取り上げた、歌舞伎や相撲、寄席のほか、妖怪、おもちゃ絵などを紹介します。

1. 歌舞伎の世界

江戸では、寛永元年(1624)以降江戸四座(中村座、市村座、山村座、森田座)が次々と幕府から歌舞伎興行を許され、元禄年間(1688～1704)には歌舞伎の全盛期を迎えました。四座のうち山村座は、正徳4年(1714)の江島生島事件で取り潰されて、以後江戸の官許の芝居は三座となりました。

江戸庶民の歌舞伎役者に対する人々の憧れは強く、歌舞伎の一年の始まりである11月の顔見

世では、観客が前夜から各座に詰めかけるという熱狂ぶりでした。また、『役者似顔早稽古』の様な、役者絵を描くための参考書が出版され、絵心の無い人までもその姿を描こうとするほど、歌舞伎役者は人気者だったそうです。上手に描くために大切なのはバランスで、役者の姿は体を描いてから服を着せること、顔は鼻、口、目、眉、輪郭の順に描くこと、とあります。

庶民に大人気の歌舞伎でしたが、幕府による禁止事項や制約が多く、決して何でも表現できるわけではありませんでした。話題性のある武家社会での事件を扱うことも、幕府に対する批判となるため禁じられていたのです。しかし、いつしか江戸歌舞伎では同時代の事件や有名な話を、過去の時代のもので演じるという手法を使うようになりました。その一例として、仙台藩のお家騒動である「寛文事件」を題材に下総国(現在の茨城県)羽生村に伝わる「累・与右衛門」の伝説を絡ませて脚色した『伊達競阿国戯場』が挙げられます。

また、歌舞伎が演じられた芝居小屋は、舞台と観客席の間に仕切やスペースが設けられていないため、役者と観客の距離が非常に近かったようです。そのため、大入りになった日には見物人が舞台にまで上がりこんで、演技のためのスペースが不足してしまい、予定していた演出を急遽変更することもあったそうです。芝居小屋には、人々が日常生活では味わえないような猥雑さや寛容さが満ちていました。それはまるで別の世界、江戸の人々を惹きつけてやまない、開放的な魅惑の世界でした。

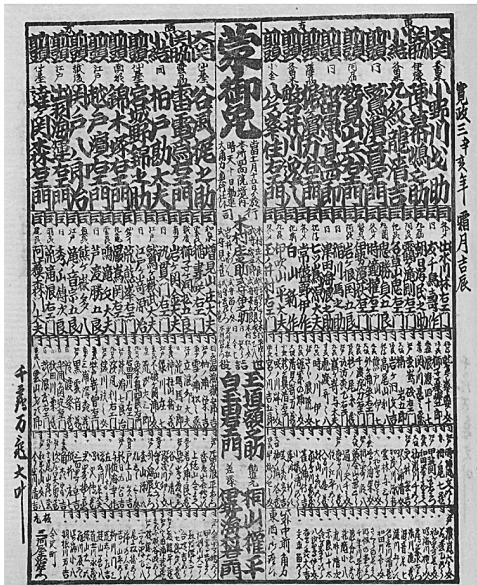


『伊達競阿国歌舞伎』

2. 江戸相撲の息吹

本所回行院などの寺社境内では勇壮な相撲の世界が繰り広げられていました。日本における相撲の起源は神話の時代まで遡りますが、庶民の娯楽として相撲が隆盛を極めたのは江戸時代になってからのことです。きっかけとなったのは、将軍が観覧する「上覧相撲」で、11代将軍徳川家斉と12代家慶の治世に江戸城吹上で7回催されました。なかでも、寛政3年(1791)6月11日に行われた家斉の上覧相撲によって、江戸の相撲熱は一気に高まります。

江戸時代の相撲興行の形態は「勸進相撲」で、本来、神社仏閣の建立・修繕等の資金として、寄進を勧めるために相撲を催すことでした。しかしそれは、しだいに職業相撲としての営利的興行へと変化していきます。寛政年間(1789~1801)になると、宮城県出身の第4代横綱谷風かじのすけや第5代横綱小野川喜三郎、雷電為右衛門といった庶民を熱狂させたスター力士たちが登場し、江戸相撲の黄金期を支えました。安永3年(1774)から嘉永6年(1853)までの約80年間に渡る番付と勝負付の集大成である『相撲起頭』では、取り組みの内容を見ることができます。



『相撲起頭』

東に小野川、西に谷風や雷電の名がみえる

3. 寄席と見世物のいろいろ

歌舞伎芝居に比べると入場料が安く、庶民にとって最も手軽な遊びとして親しまれたものに、寄席や見世物がありました。

寄席は、落語や講談などの諸芸を上演する場所です。始まりは18世紀中頃のように。演目は、はじめは浄瑠璃、小唄、講談、手妻(手品)などで、寛政年間(1789~1801)以後、落語が主流となりました。場所は、はじめは一定せず、茶屋の2階などを数日間使用するという状態でしたが、文化年間(1804~18)頃から常設小屋の形態を取るようになりました。寄席は江戸市中に多数あり、天保12年(1841)に211軒、その後の天保の改革で15軒に制限されたものの、改革の後の安政年間(1854~60)には392軒に急増しました。また、夜間も上演されていたため、庶民にとって、寄席は仕事帰りに立ち寄ることのできる、手軽で身近な娯楽の場所の一つでした。

一方、見世物は、軽業や曲芸などの珍芸、当時珍しかったゾウやラクダなどの動物見世物をはじめとする奇物、紙細工や硝子細工の細工物など様々なものがありました。両国広小路など人の賑わう盛り場に軒を並べた見世物小屋では、磨き抜かれた名人芸が人々の目を楽しませていました。みて、きいて楽しむ遊びが多彩化する中で、より刺激的な珍品珍芸に人々が関心をもっていったのでしょ。



『秘事百撰』

「八寸釘を舌に通す秘事」の種明かし



『絵本弄』

猿が人間の代わりに演じる猿芝居

4. 愉快な？妖怪たち

次は、見える世界・聞こえる世界を越えた不思議な妖怪の世界です。



『姫国山海録』



『百鬼夜行』

「妖怪」という言葉は、江戸時代にはまだなく、定義は様々でした。その一例として、科学が未発達だった時代に、「不思議」な現象が起こると、それを説明するために、「物の怪」や「化け物」を登場させています。妖怪がすみかとしているのは「闇」と「自然」、もしくは、闇の世界と人間の世界との境界です。これらは、自然の存在が身近だった江戸の人々にとっては、恐れの対象でした。しかし一方では、妖怪は歌舞伎や玩具に取り上げられたり、『姫国山海録』や『百鬼夜行』などに見られる様に、恐れとは一線を画した妖怪画が描かれたりしていました。妖怪は人間に恐怖を与えるだけでなく、遊びの中にも浸透していたのです。

5. おもちゃ絵

おもちゃ絵は、江戸中期から大正初期頃にかけて子供向けに作られた浮世絵です。種類は、千代紙・姉さまなど折ったり組み立てたりする細工もの、判じ物・双六・福笑いなどのクイズ

やゲームとなるもの等、様々でした。中には立体的に組み立てて鑑賞する「組上げ燈籠」など、大人でも組み立てが難しい大掛かりなものもありました。おもちゃ絵は、子供だけでなく大人にとっても、みてつくって楽しい遊びとして流行しました。

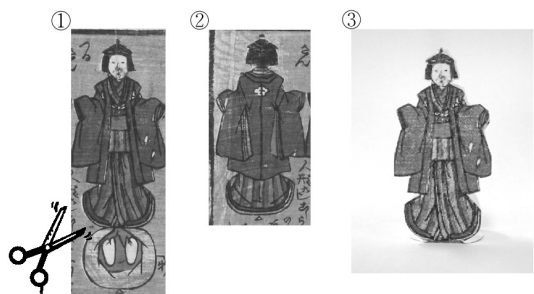


『忠臣蔵七段目組上』(宮城県図書館所蔵)
歌舞伎の「仮名手本忠臣蔵」七段目を描いた組上げ燈籠絵

6. 体験コーナー

本企画展では、江戸の遊びを体験するコーナーを設けました。体験コーナーでは前述の「おもちゃ絵」のほか、「紋切り型」、「判じ物」を通じて、江戸人の気分を味わっていただきました。

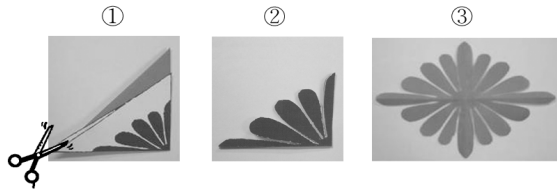
(1) おもちゃ絵「両面合ひとりで立つあね様」



人形の線に沿って表面・裏面を切り、表面の足の部分を折り曲げ、裏表を貼り合わせて、できあがり。

(2) 紋切り型

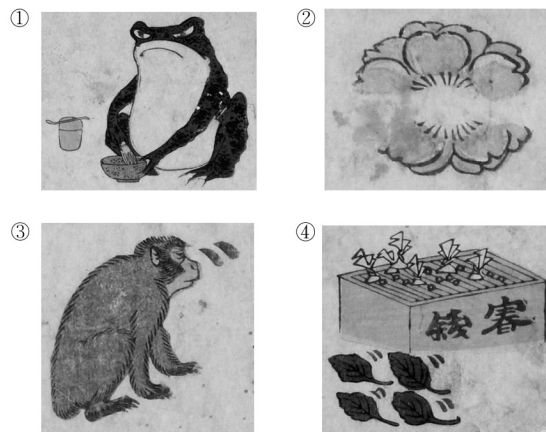
「紋切り型」とは、折り紙を折りたたみ、型紙通りに切りぬいて「紋」を作る遊びです。江戸時代には、子どもたちの学校である「寺子屋」の教科書にも載っていました。



折った折り紙に型紙をのせ、黒い部分を切り抜きます。型紙をはずして 折り紙を開き、できあがり。

(3) 判じ物

「判じ物」とは、今でいう「なぞなぞ」のことです。中でも、絵を使って表した言葉を何と読むかという「判じ絵」は、江戸時代に大流行し、多くのものが作られました。



ヒント

「がまがえる」がお茶をたてているよ。
「さくら」のまん中が消えているよ。
さるの右上に「ゝ」がついているよ。
上半分だけの「さいせんばこ」の下に、「ゝ」のついたはっぱが4まいあるよ。

答え

ちゃ・がま さら ざる さい・ば・し

おわりに

本企画展の第3部では、展示資料のほかに、『姫国山海録』の妖怪をモデルにした人形3体を飾り（制作：本学理学部数学資料室 坂内様）、パネルも充実させて、歌舞伎や妖怪等々それぞれの世界を演出するよう心がけました。来場者のアンケート結果は概ね好評でした。江

戸時代の「みるきく楽しみ」を伝えることができ嬉しく思います。

次号の本誌では、連載の第4回として「あそぶ楽しみ」を紹介する予定です。

主要参考文献（第3部）

1. 武智鉄二『歌舞伎はどんな演劇か』筑摩書房、1986.8
2. 服部幸雄『大いなる小屋 - 江戸歌舞伎の祝祭空間』平凡社、1994.3
3. 早稲田大学坪内博士記念演劇博物館編『図説江戸の演劇書』八木書店、2003.2
4. 酒井忠正『日本相撲史』上、大日本相撲協会、1956.6
5. 古河三樹『江戸時代大相撲』雄山閣出版、1968.7
6. 窪寺紘一『日本相撲大鑑』新人物往来社、1992.7
7. 朝倉無声『見世物研究』春陽堂、1928.4
8. 暉峻康隆『庶民の娯楽 - 落語の歴史』（日本文化研究5）新潮社、1959.6
9. 藝能史研究会・編『日本庶民文化史料集成』第8巻
10. 小松和彦『妖怪学新考 - 妖怪からみる日本人の心』小学館、2000.8
11. アダム・カバット『江戸化物草紙』小学館、1999.2
12. 大庭みな子『大庭みな子の雨月物語』集英社、1987.6
13. 山本駿次郎『立版古』誠文堂新光社、1976.11
14. 稲垣進一編『江戸の遊び絵』東京書籍、1988.7
15. アン・ヘリング『江戸児童図書へのいざない』くもん出版、1988.8
16. 岩崎均史『江戸の判じ絵』小学館、2004.1

（よこやま・みか）

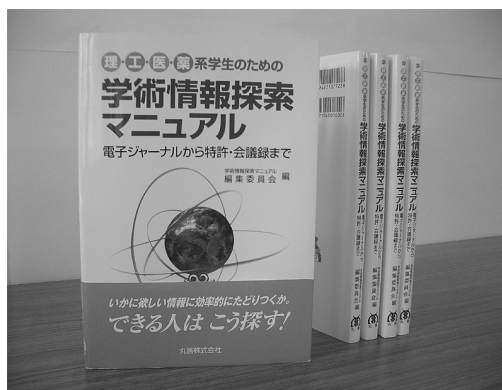
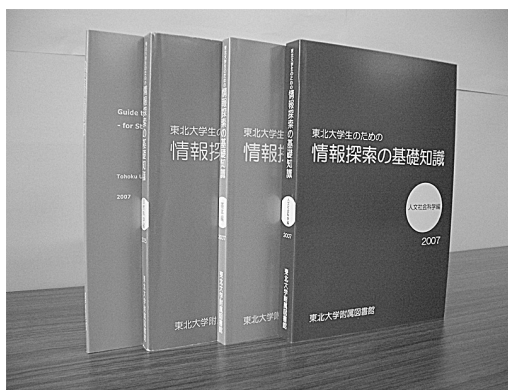
「東北大学生のための情報探索の基礎知識」シリーズの完成

東北大学附属図書館では、平成15年から東北大学生が学習を進める上で必須のインターネットや図書館資料を利用した情報探索の情報をわかりやすく説明した冊子「東北大学生のための情報探索の基礎知識」を刊行し、以来この版を「基本編」と位置付け、学部新入生向けに毎年無料配布を行ってきました。平成16年には、自然科学系の大学院生を対象とする「同 自然科学編」を姉妹編として刊行し、平成19年3月に「同 英語版(ダイジェスト版)」と、人文社会科学系の大学院生対象の「同 人文社会科学編」を刊行したことで、一連のシリーズが完成しました。本冊子は、学内はもちろん要望に応じて学外へも無料配布しており、学外へは原稿ファイルもオープンソースとして提供を続けています(平成19年6月現在では「基本編」,「人文社会科学編」のみ提供可能)。

この取組みは学内外から高く評価され、平成17年度には国立大学図書館協会賞、東北大学総長教育賞を同時に受賞しています。また、平成18年度には、「同 自然科学編」を一般向けに再編集した「理・工・医・薬系学生のための学術情報探索マニュアル」が商業出版社から発売され、附属図書館の外部資金獲得にも一役買っています。

「基本編」をテキストとした全学教育授業「大学生のための情報検索術」も平成19年度で4年目に入ります。これらの活動を、以前から図書館で実施している情報探索講習会などと有機的に結びつけ、より効果的な学術情報リテラシー教育支援を行っていきたいと思います。

(情報企画係)



附属図書館商議会商議員名簿

平成19年4月1日現在

所 属	氏 名	任 期
図 書 館 長	野 家 啓 一	職 指 定 (H17. 4. 1 ~ H20. 3.31)
図 書 館 副 館 長	倉 本 義 夫	職 指 定 (H17.10. 1 ~ H19. 9.30)
医 学 分 館 長	佐 藤 洋	職 指 定 (H15.12. 1 ~ H19.11.30)
北 青 葉 山 分 館 長	高 木 泉	職 指 定 (H17.11. 1 ~ H20. 3.31)
工 学 分 館 長	阿 曾 弘 具	職 指 定 (H19. 4. 1 ~ H21. 3.31)
農 学 分 館 長	池 上 正 人	職 指 定 (H19. 4. 1 ~ H21. 3.31)
情報シナジ-機構情報シナジ-センター長	川 添 良 幸	職 指 定 (H18. 4. 1 ~ H20. 3.31)
副学長(総務担当)	北 村 幸 久	職 指 定 (H18. 11. 6 ~ H20.3.31)
文学研究科教授	原 英 一	18. 4. 1 ~ 21. 3.31
教育学研究科教授	秋 永 雄 一	19. 4. 1 ~ 21. 3.31
法学研究科教授	山 元 一	18. 4. 1 ~ 20. 3.31
経済学研究科教授	佐 藤 秀 夫	19. 4. 1 ~ 21. 3.31
理学研究科教授	寺 前 紀 夫	17.11. 1 ~ 20. 3.31
医学系研究科教授	柳 澤 輝 行	18. 4. 1 ~ 20. 3.31
歯学研究科教授	菊 地 正 嘉	19. 4. 1 ~ 21. 3.31
薬学研究科教授	永 沼 章	18. 4. 1 ~ 20. 3.31
工学研究科教授	進 藤 裕 英	19. 4. 1 ~ 21. 3.31
農学研究科教授	山 下 ま り	19. 4. 1 ~ 21. 3.31
国際文化研究科教授	佐 藤 研 一	19. 4. 1 ~ 21. 3.31
情報科学研究科教授	尾 畑 伸 明	16. 4. 1 ~ 21. 3.31
生命科学研究所教授	仲 村 春 和	17. 4. 1 ~ 21. 3.31
環境科学研究科教授	佐 竹 正 夫	19. 4. 1 ~ 21. 3.31
教育情報学研究部教授	村 木 英 治	14. 4. 1 ~ 20. 3.31
金属材料研究所教授	古 原 忠	18. 4. 1 ~ 21. 3.31
加齢医学研究所教授	山 本 徳 男	19. 4. 1 ~ 21. 3.31
流体科学研究所教授	藤 代 一 成	18. 4. 1 ~ 20. 3.31
電気通信研究所教授	村 岡 裕 明	18. 4. 1 ~ 20. 3.31
多元物質科学研究所教授	大 塚 康 夫	17. 4. 1 ~ 21. 3.31
東北アジア研究センター教授	磯 部 彰	16. 4. 1 ~ 20. 3.31
高等教育開発推進センター教授	静 谷 啓 樹	19. 1. 1 ~ 21. 3.31

会 議

学 外

第38回国立大学図書館協会東北地区協会総会の開催について

標記会議が、4月19日(木)弘前大学が当番館となり、19名が参加して開催され、次の協議題について協議が行われた。

- 1) 東北地区における人材確保のあり方について
- 2) 東北地区における職員研修のあり方について
- 3) 東北地区国立大学におけるメールによる文献複写物の送付及び紀要等学内刊行物の電子化の推進について
- 4) 学術情報基盤整備に係る経費確保の方策等について
- 5) 平成20年度国立大学図書館協会総会の当番大学について
- 6) 第54回国立大学図書館協会総会に向けての準備事項等について
 - ・平成19年度地区選出の理事館候補館として東北大学を選出した。
- 7) 国立大学図書館協会東北地区協会理事・当番館の確認について
 - ・次期当番館について岩手大学で行うことを確認した。各協議題について活発な意見交換が行われた。

学 内

19. 4.27 平成19年度第1回附属図書館運営会議

・協議事項

- 1) 平成19年度附属図書館年間計画について
- 2) 井上プランについて
- 3) 禁煙対策について
- 4) その他

・報告事項

- 1) 平成19年度商議員について
- 2) 次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業について

3) 第38回国立大学図書館協会東北地区協会総会について

4) 国立大学法人等採用試験について

5) 図書館主催のオリエンテーション等について

6) その他

19. 5.30 平成19年度第2回附属図書館運営会議

・協議事項

- 1) 運営会議の当面の検討事項(案)について
- 2) 井上プラン「平成19年度達成目標設定シート」について
- 3) 副館長選考委員会について
- 4) 附属図書館中期目標・中期計画(案)について
- 5) 平成19年度附属図書館関連委員会構成(案)について
- 6) 平成19年度附属図書館予算(案)について
- 7) 平成19年度附属図書館資料費配分(案)について
- 8) その他

・報告事項

- 1) 東北大学生のための情報探索の基礎知識「人文社会科学編」(2007)の刊行について
- 2) Guide to Academic Information Search - for Students of Tohoku University - の刊行について
- 3) 諸会議について
 - ・国立大学図書館協会理事会について
 - ・外国雑誌センター館会議について
 - ・目録システム地域講習会(図書コース, 雑誌コース)の開催について
- 4) 平成18年度遡及入力について
- 5) キャンパス間資料搬送サービスについて
- 6) 電子情報資源管理システム(ERMS)実証実験の実施について
- 7) その他

19. 6. 1 平成19年度第1回附属図書館商議会

・協議事項

- 1) 平成19年度附属図書館年間計画について
- 2) 商議会の当面の検討事項(案)について
- 3) 井上プラン「平成19年度達成目標設定シート」について
- 4) 副館長選考委員会について
- 5) 中期計画・年度計画(案)について
- 6) その他

・報告事項

- 1) 各種委員会委員について
- 2) 図書館本館周辺の禁煙対策について
- 3) 東北大学生のための情報探索の基礎知識「人文社会科学編」(2007)の刊行について
- 4) Guide to Academic Information Search - for Students of Tohoku University - の刊行について
- 5) 次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業について
- 6) 諸会議について
 - ・第38回国立大学協会東北地区協会総会について
 - ・国立大学図書館協会理事会について
 - ・外国雑誌センター館会議について
 - ・目録システム地域講習会(図書コース, 雑誌コース)の開催について
- 7) 平成19年度附属図書館予算(案)について
- 8) 平成19年度附属図書館資料費配分(案)について
- 9) 平成18年度遡及入力について
- 10) キャンパス間資料搬送サービスについて
- 11) 電子情報資源管理システム(ERMS)実証実験の実施について
- 12) 図書館主催のオリエンテーション等について
- 13) 各分館からの報告について
- 14) その他

人 事 異 動

平成19年 6月30日現在

発令年月日	新 職	氏 名	旧 職	備 考
19. 3. 31		小 松 武 彦	事務補佐員（医学分館運用係）	任期満了
19. 4. 1	北海道大学附属図書館情報管理課長	菅 原 英 一	附属図書館総務課長	転 任
"	附属図書館総務課長	加 藤 信 哉	山形大学学術情報部学術情報ユニット長	採 用
"	信州大学附属図書館副館長	白 石 光 雄	附属図書館情報サービス課長	転 任
"	附属図書館情報サービス課長	横 山 敏 秋	茨城大学学術企画部学術情報課長	採 用
"	情報部情報基盤課長	熊 谷 功	医学分館事務長	配置換
"	医学分館事務長	山 越 隆 男	教育・学生支援部学生支援課長	"
"	山形大学学術情報部学術情報ユニット長	米 澤 誠	工学分館管理係長	昇 任
"	情報管理課雑誌情報係長	照 内 弘 通	情報部情報基盤課学術情報支援係	配置換
"	情報部情報基盤課学術情報支援係長	横 山 美 佳	医学分館整理係長	"
"	医学分館整理係長	松 元 義 正	北青葉山分館整理・運用係長	"
"	北青葉山分館整理・運用係長	小 幡 明 子	農学分館図書係	昇 任
"	工学分館管理係長	星 正 則	農学分館図書係長	配置換
"	工学分館整理・運用係長	半 澤 智 絵	情報管理課雑誌情報係長	"
"	農学分館図書係長	大 原 正 一	仙台電波工業高等専門学校庶務課 図書係長	採 用
"	農学部・農学研究科経理系主任	佐 藤 宏 子	総務課会計係	昇 任
"	総務課会計係	後 藤 栄 里	附属病院総務課給与係	配置換
"	総務課情報企画係	木戸浦 豊 和	情報管理課受入係	"
"	情報管理課受入係	藤 澤 こず江	多元物質科学研究所総務課研究協 力係	"
"	医学分館運用係	近 藤 真澄美	工学分館整理・運用係	"
"	"	永 井 伸	総務課情報企画係	"
"	北青葉山分館管理係	工 藤 未 来		採 用
"	工学分館管理係	柳 原 幸 子		"
"	工学分館整理・運用係	湯 目 昌 史	医学分館運用係	配置換
"	"	尾 田 陽 子	北青葉山分館管理係	"
"	多元物質科学研究所総務課研究協 力係	五十嵐 幸 子	宮城教育大学附属図書館情報サー ビス係	転 任
"	宮城教育大学情報サービス専門職	坂 本 香 代	工学分館管理係	"
"	独立行政法人国立高等専門学校機構 宮城地区事務部管理課学術・情報係	三 浦 純 子	工学分館整理・運用係	"
"	再雇用職員（医学分館整理係）	吉 川 文 子		採 用
"	"（工学分館整理・運用係）	菅 原 育 子		"
"	事務補佐員（総務課・会計係）	湊 ひろみ		"
"	"（情報サービス課閲覧第二係）	斉 藤 由理香		"
"	"（医学分館運用係）	沼 田 拓 巳		"
"	"（金属材料研究所図書係）	千 葉 景 子	経済学研究科・経済学部図書室	"
"	"（経済学研究科・経済 学部図書室）	佐 藤 直 美		"

「狩野文庫」グッズ販売開始

附属図書館で所蔵する「狩野文庫」の資料をモチーフにしたグッズの販売が開始されました。「狩野文庫」は、狩野亨吉（旧京都帝国大学文科大学長）の旧蔵書で、資料数約108,000点からなる「江戸学の宝庫」です。幅広い分野の和漢書古典を含み、当館で所蔵する国宝2点もこの文庫の資料です。

今回はその中から展示会などでも人気の高い資料を選び、一筆箋などのオリジナルグッズを作成し、大学生協店舗（2007年6月現在では川内店のみ）に販売を委託しました。

作成したのは、一筆箋（3種）、絵はがきセット（1種）、ミニクリアファイル（4種）、シール（1種）、ストラップ（1種）で、当館の貴重資料に指定されている「海幸・山幸」から野草や魚類の姿が美しく描かれている図と、妖怪関連の展示会で登場回数が多い「姫国山海録」の図をもとにデザインされています。

今後継続して販売するとともに、販売店舗の増加や商品のバリエーションの追加も検討していきます。来学の記念や学外へのおみやげなどにご利用ください。

（情報企画係）



▲今回作成した「狩野文庫」グッズ
クリアファイルはプライベートでも使いやすいA6サイズ
一筆箋は季節に合わせて使いわけのできる色と柄です。



▲ストラップの拡大図
モチーフは『姫国山海録』から「信濃青沼の蟲」

東北大学創立百周年記念「漱石の愉しみ」の販売について

附属図書館では、東北大学創立百周年を記念し、当館が所蔵する「漱石文庫」にちなんだお菓子を企画しました。「漱石文庫」は、文豪・夏目漱石の旧蔵書約3,000点からなる資料群で、手稿、手紙、日記なども多く含まれます。漱石亡き後、弟子のひとりであった小宮豊隆が本学の図書館長を務めていたことから、まとめて当館が譲り受けたものです。

通常は貴重書として保管しているため、閲覧にも事前申請などの制限を設けておりますが、創立百周年を機会に東京と仙台で大規模な展示会を実施することになりました（詳細は別途ウェブサイト等で広報します）。附属図書館では、この機会により多くの方に「漱石文庫」の存在を知っていただくための広報の一環として、地元の老舗和菓子店「白松がモナカ本舗」と共同で漱石にちなんだ羊羹を製作し、平成18年11月の附属図書館企画展の開始に合わせ「漱石の愉しみ」という商品名で販売を開始しました。

羊羹を選んだのは作品「草枕」の中に羊羹の美しさを表現した一文があることに由来します。また味についても、漱石が好んだとされる「ピーナッツ（南京豆）」と「紅茶」を素材に試作を繰り返し、この企画のために開発されました。さらにパッケージについては、小サイズのものに「吾輩は猫である」の初版デザインを活かし、個性的な仕上がりとなりました。発売直後から、新聞、テレビ、雑誌等で取り上げられ、漱石と仙台の意外な関係について地元仙台でも以前より知られるようになりました。

平成19年6月からは、大学生協各店舗でも取扱が始まり、市街地の店舗に出向かなくても入手が容易になりました。また、百周年に関する各種イベント会場でも販売される予定です。「漱石の愉しみ」の販売は、平成19年度いっぱいを用意しています。

（情報企画係）



▲「漱石の愉しみ」ミニサイズ



▲「漱石の愉しみ」大

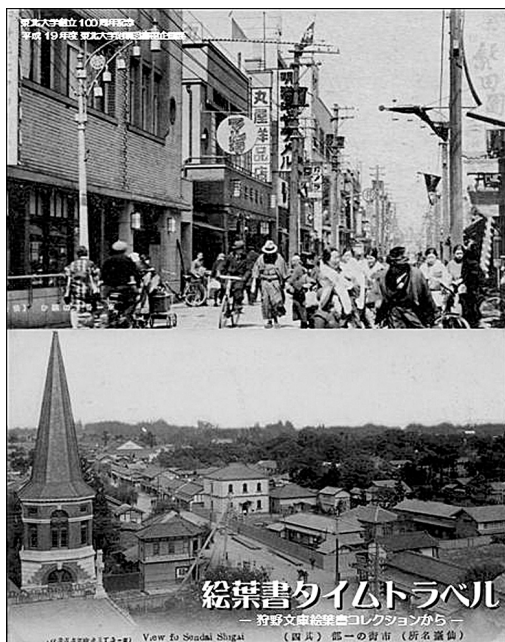
平成19年度東北大学附属図書館企画展

「絵葉書タイムトラベル - 狩野文庫絵葉書コレクションから - 」

平成19年度の企画展は、東北大学創立100周年記念事業の冠のもとに「絵葉書」をテーマとして開催します。

日本で3番目の帝国大学として誕生した東北大学は平成19年、創立100周年を迎えました。100年前の日本は、法整備や科学技術の導入、人材の育成を急ぐなか、国力の尺度のひとつと考えられていた郵便事業の整備にも力を入れており、巷では絵葉書の収集が大変な人気を呼んでいました。今回の展示では東北大学創立の頃の絵葉書ブームにちなみ、附属図書館所蔵の狩野文庫絵葉書コレクションをご紹介します。

狩野文庫は「江戸学の宝庫」とも称されていますが、明治・大正・昭和期の貴重な資料も多数含まれています。展示資料をとおして、往時の人々が絵葉書に寄せた造形の一端を垣間見るとともに、今日における絵葉書資料の価値を感じていただければ幸いです。



ポスター

展示会場と会期

第一期：

会場：東北大学附属図書館本館
エントランスホール

会期：平成19年7月4日（水）～
平成19年9月30日（日）

第二期：

会場：仙台市博物館

2F 展示ゾーン出口側

会期：平成19年11月2日（金）～
平成19年12月9日（日）

特別展「東北大学の至宝」関連イベントとして展示します。

オープンキャンパス2007特別展示：

医学分館：

7月23日（月）～8月10日（金）

北青葉山分館：

7月17日（火）～7月31日（火）

工学分館：

7月23日（月）～8月10日（金）

農学分館：

7月17日（火）～8月10日（金）

百周年記念まつり特別展示

会場：東北大学片平キャンパス

材料物性総合研究棟 ・ （2階）

会期：平成19年8月25日（土）～

平成19年8月26日（日）

開会時間と休館日は各会場により異なります。詳細は各館ウェブサイトをご参照ください。

展示概要：

「第1部 過ぎし日の研究技術」

東北帝国大学開学記念絵葉書をはじめ、当時話題を集めたハレー彗星や、各研究機関発行の研究関連の絵葉書、博覧会の記念絵葉書などを展示。



『東北帝国大学開学記念』

「第2部 在りし日の生活風景」

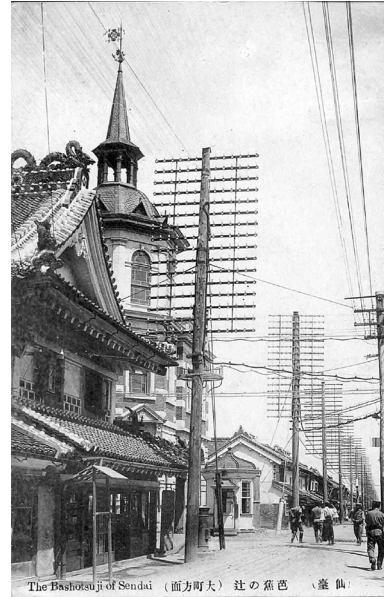
人々の生活を映した物から時事を伝える物を中心とした絵葉書を展示。



『年賀状にもサンタクロース』

「第3部 遠き日の名所旧跡」

県内を中心に名所・旧跡を扱った絵葉書を展示。

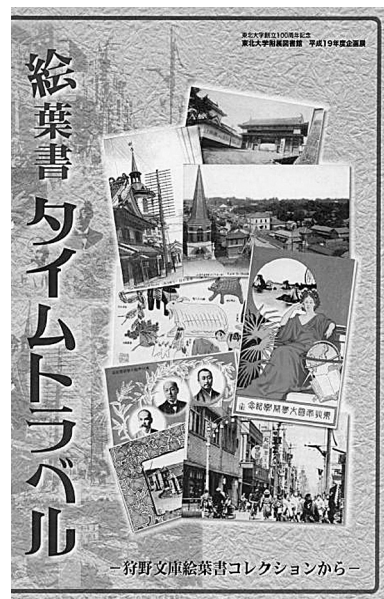


『芭蕉の辻』

展示図録：

本展示会の図録は、仙台市博物館の特別展「東北大学の至宝 - 資料が語る1世紀 -」の物品販売コーナーにおいて販売予定です。

(期間：平成19年11月2日(金)～
平成19年12月9日(日))



図録表紙

(展示 WG)

東北大学創立 100 周年記念展示のご案内

東北大学には、国宝 2 点や漱石文庫を含む、学術的に極めて高い価値を持つ幅広い膨大な資料群が所蔵されています。東北大学の創立 100 周年を記念して、その貴重な資料群や東北大学の研究を紹介し、「学都仙台」の象徴と言える東北大学の歴史と将来への展望を広く学外に示す特別展を、江戸東京博物館と仙台市博物館を会場として開催いたします。またそれぞれの会場では記念講演会やイベント等も開催します。

東北大学創立 100 周年記念展示 東北大学の至宝 — 資料が語る 1 世紀 —

[in 東京]

- 期間：平成 19 年 9 月 1 日(土)
～平成 19 年 10 月 14 日(日)
- 場所：江戸東京博物館
(5 階常設展示室内 第 2 企画展示室)

[in 仙台]

- 期間：平成 19 年 11 月 2 日(金)
～平成 19 年 12 月 9 日(日)
- 場所：仙台市博物館



文豪・夏目漱石

そのころとまなざし — 東北大学創立 100 周年・
漱石朝日新聞社入社 100 年・江戸東京博物館開館 15 周年記念 —

[in 東京]

- 期間：平成 19 年 9 月 26 日(水)
～平成 19 年 11 月 18 日(日)
- 場所：江戸東京博物館
(1 階企画展示室)

※講演会・イベント等は
現在企画・調整中



東北大学の至宝 記念講演会

- [in 江戸東京博物館] 14:00-15:30
- 「独創のすずめ—未来を拓く科学教育—」
9/ 2(日) 西澤潤一 (首都大学東京学長)
 - 「藤森建築と芝棟」
9/ 9(日) 藤森照信 (東北大学教授)
 - 「科学と小説と夢見るカ—東北大学機械系研究室から—」
9/16(日) 瀬名秀明 (作家、東北大学特任教授)
 - 「河口慧海ヒマラヤに行く—日記とコレクションから見る『チベット旅行記』の世界—」
9/23(日) 奥山直司 (高野山大学教授)
 - 「脳を鍛えよう！—脳科学者からのメッセージ—」
9/30(日) 川島隆太 (東北大学教授)
- [in 仙台市博物館] 13:30-15:00
- 「地域と歩む東北大学」
11/ 3(日) 井上明久 (東北大学総長)
 - 「科学の魅力—数学の魅力—」
11/23(金) 小谷元子 (東北大学教授)
 - 「遺伝子を動かして脳を動かす！」
11/24(土) 大隅典子 (東北大学教授)
 - 「江戸文化を語る—狩野文庫の魅力—」
11/25(日) 竹内誠 (江戸東京博物館館長)

東北大学の至宝 フロアレクチャー

- [in 江戸東京博物館] 15:00-15:30 (以下東北大学員)
- 「学都」
9/ 1(土) 永田英明
 - 「図書館」
9/ 8(土) 曾根原理
 - 「今も昔も手書きの世界」
9/15(土) 磯部彰
 - 「東北大学の古文書」
9/22(土) 柳原敏昭
 - 「チベット—河口慧海と多田等親師来品の世界—」
9/29(土) 長岡龍作
 - 「赤煉瓦書庫」
10/ 6(土) 柳田俊雄
 - 「標本庫、研究第一主義の系譜」
10/13(土) 永広昌之

東北大学の至宝 ミュージアムトーク

- [in 仙台市博物館] 13:30-15:00
- 「知る人ぞ知る狩野文庫—国宝からマッチラベルまで—」
11/10(土) 曾根原理
 - 「わが図書館は日本の敦煌—宝島それとも夢の島?—」
11/10(土) 磯部彰
 - 「いこしえ人の声を聞く—東北大学の古文書—」
11/17(土) 柳原敏昭
 - 「チベット—河口慧海と多田等親師来品の世界—」
11/17(土) 長岡龍作
 - 「縄文の華・亀ヶ岡文化の工芸品」
12/ 1(土) 柳田俊雄
 - 「東北日本はアンモナイトの宝庫—東北大学のアンモナイト研究 100 年—」
12/ 1(土) 永広昌之

東北大学の至宝 イベント

- [in 仙台市博物館]
- 11/ 2 ～15
「東北大学テクノワンダーランドへようこそ！—体験と展示—」
※11/3～4 は体験イベント
 - 11/23 ～24
「サイエンス・パーク with サイエンス・エンジェル @ 仙台市博物館」
 - 11/ 2 ～12/ 9
「絵葉書タイムトラベル—狩野文庫絵葉書コレクションから—」

※チケットは、各会場の
窓口でお買い求めくだ
さい。
※講演会は事前申込みが
必要です。詳細は、各
会場に直接お問い合わせ
ください。

編 集 後 記

▼雨上がりのせいなのか、会議室の窓に映る樹々の緑がまぶしく、青葉山の鳥たちの声も嬉しそう。「とっきょきょきょく」はホトトギスだけれど、「スピーク！スピーク！」と聞こえるのは、名も知れぬ鳥かも。

▼「しゃべれ、しゃべれ」とうるさいので、「オレンジ色」と言うことにしました。紫色や黄色そして「楽天カラーの色」も提案されています。「楽天カラーの色」ご存知ですか。別名クリムゾン色、色彩コードは #DC143C とか。Google に直接コードを入力すると、真っ赤なペー

ジが現れました。要するに、ほとんど赤。楽天カラーは楽天的な色ではなく、楽天ゴールデンイーグルスのカラーです。

▼そんなわけで（どんなわけ？）、表紙の候補となる色が選ばれました。もちろん本学ロゴマークとのバランスも重要です。次の会議では、各色の見本を見比べ、表紙の色を決めることでしょう。

▼どの色になるのか、もうお分かりですね。そう、答えは1ページ目にあります。

○平成19年度広報委員会委員

委員長 加藤 信哉

高橋 信野	小野寺金巳
菊地 良直	南館 義孝
近藤真澄美	小飯塚 猛
中村 浩子	大原 正一
横山 敏秋	

注) 印は木這子編集委員

東北大学附属図書館報「木這子」 第32巻第1号（通巻118号）発行日 平成19年6月30日

発行人 北村 明久 広報委員会委員長 加藤 信哉

発行所 東北大学附属図書館 〒980-8576 仙台市青葉区川内27-1 電話 022-795-5911, FAX 022-795-5909
URL <http://www.library.tohoku.ac.jp/>